



Annual
Activity
Report

2015

2015年度 年次報告書



ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

2015年度の御礼と活動報告

チャレンジを継続し、不断の改善に取り組みます。

2015年度は、テラ・ルネッサンスにとって、チャレンジの連続でした。特筆すべきは、世界で一番貧しいと言われるブルンジでの紛争被害者の自立支援プロジェクトを実施したことです。支援対象地域・住民が持つ「資源」に着目し、それらを活用する支援は、人々の自主性（誇り・尊厳）を取り戻します。プロジェクトで完成した製品を持つ人々の瞳は、きらきらと輝いていました。しかし、課題も残ります。上半期に、当初予算通りのファンドレイジングが達成できず、現場での支援には影響が出ないように配慮しながら、補正予算を組むことに。時期に偏りのない安定的な財源を確保し、各地での事業を円滑に実施できるような経営体制を確立すべく、不断の改善を実施してまいります。



創設者・理事
鬼丸 昌也

行き場のなかった子ども兵が、家族の生活を支える存在に。

いつもご支援をいただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。おかげさまで、ウガンダでの元子ども兵の社会復帰支援も開始してから、10年以上が経ち、かつては帰還しても行き場のなかった元子ども兵たちが、今では自分だけでなく家族の生活をも支える存在になっています。10年前には、3万人以上いたと言われる子ども兵の数も、現在では推定1,000名ほどに減少し、あと、もう少しで、ウガンダ北部の子ども兵をゼロにするというところまでできました。また、今年も、世界で一番、貧しい国でもあるブルンジの活動を本格的に開始することもできました。これらの活動は、すべて、日本の皆様方からのご支援によって行うことができました。今後とも、ご支援、ご協力いただけますことを心よりお願い申し上げます。



理事長
小川 真吾

「自立」と「自治」を促進する支援を実施しました。

2015年度は、アジア事業にも多くの皆様に関心を持ってくださり、ご支援いただいたことに感謝申し上げます。例年より多くの方にカンボジアをご訪問いただき、「自立」と「自治」を目指して立ち上がろうとする人々の活動を実際に見て、ご支援いただいたことを、とても嬉しく思います。ラオスでは、村人だけではどうしようもないほどの時間とお金のかかる不発弾撤去と小学校の建設を実施し、村人たちの「自立」と「自治」を促進する手助けとなりました。私自身が、困難な状況にいる村人たちが自らを変化させようとする力に、大きな勇気をもたらした一年でした。



カンボジア事務所 所長
江角 泰



[目次]

- P.03 2015年度のご挨拶
- P.04 スタッフ相関図
- P.06 活動地域・内容 解決に取り組む課題
- P.07 活動理念
- P.08 国際協力事業 アジア
- P.14 国際協力事業 アフリカ
- P.20 東日本大震災における被災者支援「ともつな基金」事業 日本
- P.24 啓発・人材育成事業 日本
- P.32 会計報告



啓発 マネージャー
栗田佳典



広報・ファンドレイジング マネージャー
小田起世和



創設者・理事
鬼丸昌也



総務・労務担当
牧野由起子



支援担当
上野知子

テラ・ルネッサンス スタッフ相関図

本部事務局 (京都)



理事長
海外支援事業部長
小川真吾



海外事業部
アフリカ事業 マネージャー
鈴鹿達二郎



プロジェクトコーディネーター
エジマナ・パシフィック



養蜂トレーナー
ムサ・ナンデウチ



プロジェクトオフィサー
トシャ・マギー



ドライバー
ティエリ・マサボ



プロジェクトアドバイザー
エリック・ニラギラ

ブルンジ事務所



生産管理担当
佐々木加奈子



大槌刺し子プロジェクト
スタッフ
伊藤いずみ



理事
大槌刺し子プロジェクト
マネージャー
吉田真衣



販売管理担当
佐々木静江



会計担当
黒澤かおり

大槌事務所

カンボジア事務所



プロジェクトコーディネーター
クン・チャイ



カンボジア事務所 所長
江角 泰



会計担当
ヨート・イエト



建設担当
ブン・トゥン



事務所警備員
ホウト・ヒアト



裁縫技術指導員
サムリット・ラウ



ドライバー
ヴァン・ソツピア

コンゴ事務所



ロジスティシャン
チルフラ・バヒンデウ



事業調整員
ナメガベ・ビチュラ



コンゴ事務所 所長
テオフィー・チシバンジ



ドライバー
マソング・チズング・
ジョージ



事業調整員
マバタノ・ルワバグマ



延岡由規



岡田実沙季



米田瑞希



中嶋春香



土井清加



フェローシップ
川島綾香



岡崎 愛



小林稜弥



杉本真希



内藤千賀



進士 巧



フェローシップ
辻本真貴子



番野結希



李 ダレ



岡本美穂



徳永かのこ



依田匡史

インターンシップ (研修生)

ウガンダ事務所



ウガンダ事務所 所長
(プロジェクトマネージャー)
オテマ・ジミー



能力向上支援担当
(木工大工訓練講師)
オドン・ベンソン



能力向上支援担当
(服飾デザイン訓練講師)
アチャー・ポスコ



心理社会支援担当
オジャラ・サンデー



セキュリティ担当
オチャカ・ジャコブ



BHN支援担当
アティム・クリスティーン



セキュリティ担当
オンウォヤ・チャールズ



ドライバー
オボカ・パトリック



BHN支援担当
オチャカ・グレース



能力向上支援担当
(服飾デザイン訓練講師)
アニエコ・ピッキー



プロジェクトオフィサー
オケロ・リチャード



能力向上支援担当
(洋裁訓練講師)
オコト・ジョセフ



BHN支援担当
アデゥバンゴ・マティナ

活動地域・内容、解決に取り組む課題



コンゴ民主共和国	●コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト
ウガンダ共和国	●ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト ●不法小型武器問題啓発プロジェクト
ブルンジ共和国	●ブルンジにおける紛争被害者に対するレジリエンス促進プロジェクト
カンボジア王国	●地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト ●地雷埋設地域教育支援プロジェクト ●地雷撤去支援プロジェクト
ラオス人民民主共和国	●ラオス不発弾撤去支援プロジェクト ●不発弾汚染地域学校建設プロジェクト
日本	●啓発活動(講演、ワークショップ、スタディツアー、パネル展示など) ●政策提言(武器貿易条約締結に向けたキャンペーン及び政策提言活動など) ●東日本大震災復興支援活動(ともつな基金/大槌復興刺し子プロジェクト)



地雷

世界には6千万個～7千万個の地雷が現在も残されており、15万人～20万人が犠牲になっています。



小型武器

年間50万人が小型武器の犠牲となり、その約7割が女性と子どもたちです。また、子ども兵が増える原因の一つにもなっています。



子ども兵

18歳未満の子どもの兵士が、世界には最低でも25万人(19ヶ国)も存在すると言われています。その内の8ヶ国が、アフリカに集中しています。



平和教育

講演会などを通し、紛争の事実を伝え、「私たちに何ができるのか」を考える機会を提供しています。

🌐 目的の世界 テラ・ルネッサンスの目的(ヴィジョン)

すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和)の実現

🌳 使命の樹 テラ・ルネッサンスの使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

🌱 理念の土壌 テラ・ルネッサンスの活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



ひとり一人に未来をつくる力がある

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立目的(ヴィジョン)を追求するために行われます。ヴィジョンを達成するために、責任を持って果たさなければならない任務が使命(ミッション)です。そして、すべての活動の指針となるのが、活動理念です。



国際協力事業 アジア Asia

カンボジアでは、地雷埋設地域において地雷撤去活動により202名を支援し、貧困層1,476名に村落開発支援を実施、小学校と幼稚園建設により650名の子どもたちが初等教育を受けられるようになりました。また、ラオスでは、学校建設により546名の不発弾汚染地域の子どもたちが教育を受けられるようになりました。

アジアでは、カンボジアとラオスの2か国で、地雷・不発弾によって影響を受けている地域において、それらを除去し、安全を確保するとともに、地雷や不発弾の被害者を含めた貧困層への村落開発や教育支援を実施してきました。

カンボジアでは、最も地雷汚染のひどいバットンバン州のタイ国境地域で、地雷撤去とともに地雷埋設地域に住む貧困層の支援を実施してきました。2016年1月からは、地雷撤去に障害となる灌木を除去する機械チームの運営費を提供し、より早く効率的に撤去活動を進めるとともに、地雷埋設地域の3村において、村人たちの自立と自治を目指した村落開発支援を実施しました。またラオスでは、小学校の敷地内の不発弾を撤去するとともに、安全になった土地に3つの教室と職員室を含む小学校を建設しました。

「自治」への貢献と手応え



私たちが村落開発支援の対象としている村の住民組織のメンバーたちは、この事業を開始してからより自分たちのコミュニティに対しての責任を持つようになったと思います。月例の自治会の運営、清掃活動、揚水ポンプの管理など、村人たち自身で話し合い、決定して実行していく「自治」ができるようになっていきます。村人たちは、コミュニティのニーズが何か、自らの意見を出し合い、コミュニティの資産を大切に、お互いに助け合うようになりました。また、自治会やコミュニティの活動に参加する人数もどんどん増加しています。

私は、村人たちが、村人たち自身のコミュニティを、村人たち自身の手で治めていくことができる手応えを、2014年度の活動の中から感じています。そして、村人たちの「自治」と「自立」が、平和な社会をつくることにつながると信じています。

2015年度の事業を振り返って

対象地域のコミュニティの村人たちが、私たちの村落開発支援の事業を通じて、一人ひとりが自らのコミュニティと生活環境を変化させていく力があるということを示し、変化していくのを見るのが、私はとても嬉しいです。ほとんどの村人たちは、私たちが彼らの生計のために推奨し始めた小規模家庭菜園に継続して取り組み、コミュニティの運営に参加しています。彼らは、家族の生計と自身のコミュニティへの責任に対しての“自信”を感じているように、私には見えてきました。それは、自分たちにもやればできるという確かな変化を目の当たりにしたことから、芽生え始めたものかもしれません。私は、村人たちの一人ひとりの小さな変化を大切にすることで、大きな変化を生み出すことができると信じています。村人たちの心の中に芽生え始めた、まだ小さいかもしれませんが、確かな“自信”を、大切に育てていきたいと思っています。



[カンボジア事務所]
プロジェクト
コーディネーター
クン・チャイ

カンボジア 地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト

事業の目的	地雷埋設地域の貧困削減。地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む戦争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止すること		
事業地域	カンボジア王国バタンバン州	受益者数(累計)	約400家族
受益者カテゴリー	地雷埋設地域に住む貧困層の村人 地雷被害者、障害者	事業実施期間	2006年10月～継続中

プロジェクトの成果

2015年度は、地雷被害者や、元子ども兵、小型武器の被害者を含む紛争被害者が、自立して生活できるようにサポートをするとともに、新たな地雷・不発弾事故を防止することを目的に、バタンバン州カムリエン郡ロカブス村とプレア・プット村、バヴェル郡ブオ・ソククリアチ村での村落開発支援を実施しました。

[ロカブス村] ロカブス村(152世帯、731名)では、幹線道路沿いのコミュニティと小学校の裏のコミュニティに分かれて毎月自治会を開催し、村の中の問題を村人たちが自分たちで話し合い、解決しています。その一つとして、毎月の清掃活動の日取りを決めて、村のゴミ拾いを実施しています。

収入向上支援として、2014年に灌漑用水路と揚水ポンプを支援していましたが、2015年はそれを本格的に活用して、小規模家庭菜園をサポートしました。これまで、ほとんどの村人は換金作物のカッサバやトモロコシを栽培していたものの、食料はほとんど自給していませんでした。そのため、まずは食費を削減することを目的として自分たちの食料を自給し、その上で食べきれない分の野菜を販売する支援を、次の計画として見据えての家庭菜園の支援を行いました。野菜の種の配布や有機栽培方法のワークショップの開催、灌漑水路と揚水ポンプの管理の支援で、ロカブス村では70%の家庭が、家庭菜園を始めています。すでに、食料を自給するだけでなく、収穫した野菜の販売で毎日収入を得ることができるようになった人など、想像以上の成果を出している村人もいます。より多くの村人が、収穫した食べきれない野菜を販売するという次の支援計画に移行できる環境が整いつつあります。

また、基礎教育支援活動として、ロカブス村小学校では、通常の授業や小学校の管理は、これまでの支援でできるようになっています。そこで、2015年度は、補習授業を実施して、家庭の経済的な理由で学校の勉強が遅れている子どもたち43名に、基礎教育が受けられるように支援をしています。また村の教会では識字教育の支援を28名の子どもたちに対して行いました。



[プレア・プット村] プレア・プット村では、2014年に新しくこの村に編入された元地雷原のコミュニティ24世帯と、小学校の裏の元地雷原のコミュニティ30世帯で、それぞれ自治会を組織しています。ここでは、家庭菜園や清掃活動の支援、また、最貧困層の地雷被害者家族への生計向上支援を実施しました。村に住む地雷被害者のパン・ブン氏家族には、住む土地もなかったため、居住のための土地と、生計を向上させるためのバイクを提供しました。これにより、少しずつ家庭菜園を始めたり、タイからの農産物をバイクで売り歩くことで、これまで日当を稼ぐ程度でしかなかった畑仕事の収入源を、多様化させたりすることができるようになってきました。

基礎教育支援活動では、プレア・プット村の元地雷原の編入された地域に、幼稚園を建設し、これまで教育施設へ全く通っていなかった約20名の子どもたちが、クメール語の読み書きなどの基礎教育を受けられるようになりました。さらに、勉強が遅れている子どもたち33名への補習授業も実施しています。

[ブオ・ソククリアチ村] ブオ・ソククリアチ村では、裁縫技術訓練が2015年10月に終了し、6名の貧困層住民の開店を支援しました。裁縫技術を身につけた6名には、技術を生かしてビジネスを運営していくために、マイクロクレジットで1年間の無担保無利子の融資をする支援を実施しています。

また、ブオ・ソククリアチ村小学校では補習授業を行い、家庭の経済的な理由で学校の勉強が遅れている子どもたち28名が基礎教育を受けられるように支援をしています。

[写真:上] ロカブス村の小学校で放課後に実施されている補習授業の様子

[写真:左] 提供したバイクで生活している受益者の様子

[写真:右] 裁縫技術訓練修了後、自宅の高床式の家の下でお店を開いたチャンター・マリッさん

マイクロクレジットも利用して生地を買い、すでに伝統衣装などの注文が入っている受益者の様子

カンボジア 地雷撤去支援プロジェクト

事業の目的	カンボジア北西部地域において、2012年までに「犠牲者ゼロ（Zero Victim）」を、2015年までに「汚染影響ゼロ（Impact Free）」を目指し、貧困地域の開発支援へとつなげる		
事業地域	カンボジア王国北西部地域	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	地雷原と地雷原周辺に住む村人	事業実施期間	2001年～継続中

プロジェクトの成果

カンボジアでは、地雷撤去支援事業で、より効率的に地雷を撤去するために提携している地雷撤去団体MAGの“ネメシス”という機械チームの運営費の提供を、2016年1月から開始しています。ネメシスは、地雷を撤去する際に最も時間のかかる草木などの灌木を除去する作業を実施し、地雷探知犬チームと共同して、より早く地雷撤去ができるように貢献しています。この機械は対人地雷の爆発の威力には耐えられるようにできており、2名のスタッフの遠隔操作によって、安全に灌木を除去できます。対戦車地雷の埋設されている地雷原では、使うことができませんが、地雷探知犬チームと組み合わせることで、地雷撤去にかかる時間とコストを大幅に削減することができています。2016年1月～3月までに、バタンバン州サムロート郡の残された地雷原で、162,076㎡の土地を安全にすることに貢献し、13発の対人地雷と4発の不発弾を発見し、安全に爆破処理をしました。これにより、44世帯、202名に直接的に裨益しています。



[写真:左] 効率的な地雷・不発弾撤去のために“ネメシス”で障害物を除去している様子

[写真:右] クラスター爆弾の不発弾を撤去し、ポーンサイ小学校の開校式後に、安全になった学校のグラウンドで遊ぶ子どもたち

ラオス 不発弾汚染地域学校建設プロジェクト

事業の目的	不発弾汚染地域の安全な教育環境を確保し、教育の質を向上させること		
事業地域	ラオス	受益者数(累計)	約555名
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に住む子どもたち	事業実施期間	2015年6月～11月

プロジェクトの成果

シエンクアン県クーン郡にあるポーンサイ小学校で不発弾撤去後に、3教室の校舎と職員室の建物の建設をしました。これまで教室数が不足していたために二部制での授業が実施されていましたが、3教室の校舎の建設により、一部制で授業を実施し、1人の子どもが午前・午後とも勉強できるようになりました。また職員室の建物を建設しことによって、生徒数121名、教員9名が授業を実施し、基礎教育を受けられるようになっています。

2009年に、テラ・ルネッサンスがシエンクアン県ノンヘット郡カンパニオン村に建設したプレマ・シャンティ中学校にノートパソコン13台の支援を実施しました。これまで先生たちは、レポートなども手書きで書いていましたが、先生たちがパソコンを使用できるようになったことで、週に1回ずつプレマ・シャンティ中学校の425名の生徒へITの授業を実施することができるようになりました。これまでパソコンを触る機会もなかったラオスの農村部の子どもたちに、パソコンの勉強をする機会ができたことで、将来の仕事の可能性の幅が広がることが期待されます。

ラオス 不発弾撤去支援プロジェクト

事業の目的	不発弾汚染地域の安全を確保し、開発支援につなげる		
事業地域	ラオス	受益者数(累計)	約855名
受益者カテゴリー	不発弾汚染地域に住む子どもたちと小学校の教員	事業実施期間	2015年6月

プロジェクトの成果

シエンクアン県クーン郡ポーンサイ小学校の学校建設を実施する前に、学校の敷地内にある不発弾を撤去するために、提携している不発弾撤去団体MAG-Laoへ費用を提供し、不発弾撤去を実施しました。信じられないことですが、これまでも不発弾が残ったままの状態、小学校では授業が実施されており、常に子どもたちは事故に遭う危険性がありました。これにより、小学校の敷地から4発のクラスター爆弾の不発弾が撤去され、121名の小学生と幼稚園生、9名の教員たちが安全に勉強し、遊ぶことができました。



国際協力事業 アフリカ Africa

ウガンダでは、これまで192名の元子ども兵、及びその家族を含む紛争被害者、約1,200名への支援を実施してきました。コンゴ(民)では元子ども兵や孤児、性的暴力の被害を受けた女性、最貧困層、計711名、ブルンジ共和国では約1,000名を対象にした支援活動を実施しています。

ウガンダにおいて、24名の元子ども兵(第8期生)を受け入れ、職業訓練、基礎教育、心理社会支援などの社会復帰に必要な支援を行うとともに、元子ども兵とその受け入れ家族、約100名への生活支援を行いました。また、19名の元子ども兵(第7期生)に対し、収入向上のための支援を実施し、現地NGOを通して不法小型武器問題の啓発活動も行いました。コンゴにおいては、元子ども兵や紛争被害を受けた女性たちを主な対象とした洋裁と溶接の職業訓練、自給食料を確保するための農業支援、また、コミュニティ道路の整備を行いました。さらに、ブルンジでは新規事務所を開設し、紛争の影響を最も受けた地域の一つであるムランビヤ県において、紛争被害者や最貧困層を対象に、養蜂の技術支援、及び、製品化やブランディング支援を行い、同時に同コミュニティの子どもや青年を対象とした伝統ダンス教室の開催、サッカー場の整備などを行いました。

世界で最も貧しい国で誕生した、最も美味しい蜂蜜ブランド

今年度、事務所を開設したブルンジは、紛争で30万人もの命が奪われ、今も、世界で最も貧しい国(一人当たりのGDPは世界最下位)です。対象地域のほとんどが農民でコーヒー栽培などにも従事していますが、農閑期になると収入がなくなり、子どもの学費だけでなく、必要な食料さえ買えない状況でした。そこで、収入源を多様化して安定した生活が営めるように養蜂の技術支援を開始しました。対象者は紛争で家族を亡くした人や最貧困層で、小学校すら卒業していない人がほとんどでしたが、最終的に、この1年で全員が養蜂技術だけでなく、蜂蜜の製品化についても学び、地元では初となる、蜂蜜製品のブランド「アマホロ・ハニー(平和の蜂蜜)」が誕生しました。成分分析の結果、この蜂蜜はミネラル類が非常に高く、糖度も82%を超えるほど上質なものであることがわかりました。ブルンジ国内で販売されるようになり、昨年、生産した分は1ヶ月で売り切れるほどの人気商品となりました。このブランド名やラベルも対象者のアイデアにより完成したものです。



2015年度の事業を振り返って

1年前、ブルンジで出会った対象地域の人たちは、「あなた方は何をくれるの?」と私に尋ねてきました。外国のNGOが来れば、食べ物やお金やモノをもらえると思い込んでいるからです。残念ですが、これはアフリカの多くの貧しい地域に共通していることです。しかし、それは援助する側にも責任があります。本当に、その地域のことを考えれば、地元の人たちの「自立と自治」を促進することが最も大切です。つまり、対象地域の人々が、自分たちの力で生きていけるように経済的な自立を支援し、自分たちで、村が抱える課題を考え、解決策を実践できるように自治を支援していくということです。この1年間、ブルンジで養蜂技術を学び、アマホロ・ハニーを完成させた受益者たちを見ていて、テラ・ルネッサンスが大切にしている「自立と自治」の促進は、きっと、私たちアフリカ人が失ってしまった「誇り」を取り戻すことにつながると強く思いました。



[アフリカ事業]
プロジェクトオフィサー
トシャ・マギー

1

ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながらコミュニティで安心して暮らせるようになること		
事業地域	ウガンダ共和国 … グル県、アムル県、キトグム県、パデー県	受益者数(累計)	1232名(内、元子ども兵は192名)
受益者カテゴリー	元子ども兵及びその家族 最貧困層住民	事業実施期間	2005年5月～継続中



プロジェクトの成果

2015年6月に第8期生の元子ども兵24名を受け入れ、社会復帰のために必要な職業訓練、基礎教育、平和教育、また心理社会的な負担を軽減するためのカウンセリングなどの心理社会支援を実施することができました。また、彼らとその家族の医(衣)・食・住などの生活支援を行いました。

第8期生の元子ども兵たちは、3月末現在、約10ヶ月間の訓練を終えて、全員が洋裁・服飾デザイン・手工芸、または木工大工の基本的な製品を製作できるだけの職業技術を身につけ、日常生活を営める程度まで心理社会的な負担を低減することができます。同時に、2015年1月に、フルタイムの社会復帰訓練を終えた第7期生の元子ども兵、及び最貧困層の住民に対し、収入向上のために必要な実地訓練を行い、全員が収入を得られるようになっています。



[写真] ウガンダで職業訓練を受けている女性たち。
洋裁の授業に取り組んでいる様子

2

不法小型武器問題啓発プロジェクト

事業の目的	不法小型武器の流通・拡散が、コミュニティに及ぼす悪影響について一般市民の意識が向上すること		
事業地域	ウガンダ共和国 … カンバラ市	受益者数(累計)	—
受益者カテゴリー	一般市民	事業実施期間	2005年2月～継続中

プロジェクトの成果

2015年6月の国際小型武器週間に合わせて、現地の市民社会組織とともに、市民に対して、小型武器問題がコミュニティに及ぼす影響を啓発するためのイベントを開催することができました。寸劇などを取り入れ、子どもにもわかりやすく、同問題を啓発する機会がつかれるよう意識しました。参加者らからは、同様のイベントを定期的に開催してほしいとの声も聞かれました。

3

コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト

事業の目的	元子ども兵及び紛争被害者がエンパワーメントされ、BHN(人間としての基本的なニーズ)を満たして生活できるようになること		
事業地域	コンゴ民主共和国 … 南キブ州、カレヘ行政区、カロンゲ区域	事業実施期間	2009年6月～継続中
受益者数(累計)	直接受益者:711名(内訳:元子ども兵171名、性的暴力を受けた女性382名、孤児158名)		
受益者カテゴリー	元子ども兵、紛争被害者(性的暴力の被害女性、孤児、最貧困層住民)		

プロジェクトの成果

紛争下で断続的な避難生活を強いられている性的暴力の被害を受けた女性たちを主な対象者として、自給食料を確保するための農業支援や、農機具、種子の供与を行いました。それにより、全員が主食作物をすべて自給することができ、また、共同農場において栽培したカッサバにより、治安悪化のため耕作地を放棄せざるをえなかった対象者たちの食料を確保することができました。この約2年間で、同農場において約50トンのカッサバを収穫することができています。これは約150人が1年間に消費する量に相当します。また、一昨年に溶接技術の訓練を終えた元子ども兵らに対して収入向上支援を行い、まだ不安定ではあるものの、一人当たり、毎月、約50ドル～200ドルの収入を得られるようになっています。あわせて、今年度、孤児や10代で子どもを身ごもった女性などを中心に洋裁の技術訓練を行い、20名が洋裁技術を身につけることができました。



4 ブルンジにおける紛争被害者及び貧困層住民の能力開発を通じたレジリエンス向上プロジェクト

事業の目的	紛争被害者が生計向上のための能力を開発するとともに、コミュニティビジネス(生産者協同組合)が組織され、持続的なコミュニティの収入源が確保されること		
事業地域	ブルンジ共和国…ムランビヤ県キガンダ郡	受益者数(累計)	紛争被害者及び最貧困層住民 98世帯 約600名 若年層住民約300名
受益者カテゴリー	紛争被害者及び最貧困層住民	事業実施期間	2015年4月～2018年3月



プロジェクトの成果

ブルンジ共和国ムランビヤ県キガンダ郡で、最貧困層及び、紛争被害を受けた対象者58名に、同地で昔から業として重宝されてきた蜂蜜の生産技術訓練、ブランディング支援などを実施し、全員が生産技術を習得し、地元の特産品としての製品化に成功しました。また、現在、同地域の若者約300名を対象に環境教育を行い、対象者の環境に対する意識、または知識が向上しています。

5 ブルンジ共和国における少年サッカーアカデミー設立プロジェクト

事業の目的	対象地域の青少年がスポーツを通して、さまざまな困難に適応していくために身体的、精神的な強靭性を身につけること		
事業地域	ブルンジ共和国…ムランビヤ県キガンダ郡	受益者数(累計)	約50名
受益者カテゴリー	対象地域の若者	事業実施期間	2016年4月～2017年3月

6 ブルンジ共和国における伝統ダンス教室開催を通じた心理社会支援プロジェクト

事業の目的	対象地域の子どもや青少年が伝統ダンス教室を通して、地元の文化と伝統に誇りを持ち、さまざまな困難に適応していくために身体的、精神的な強靭性を身につけること		
事業地域	ブルンジ共和国…ムランビヤ県キガンダ郡	受益者数(累計)	約100名
受益者カテゴリー	対象地域の子ども、若者	事業実施期間	2016年4月～2017年3月



[写真:左] 対象地域の若者を中心に、サッカー場の整備を開始しました

[写真:右] 対象地域の子どもたちを中心に伝統ダンス教室を開始することができました

● 左ページの写真について

[写真:上] 自立支援センターの前で製品化した蜂蜜を並べ、嬉しそうな笑顔を見せてくれる受益者の様子

[写真:下] 巣箱から蜂の巣を採取し、採れた蜂蜜を計量器ではかって容器に入れている様子



「ともつな基金」事業 日本 Japan

岩手県大槌町は、2016年3月、東日本大震災から5年を迎えました。2011年6月のプロジェクト開始より、184名の刺し子さんに商品製作に携わっていただき、総売上げは1億485万円、総額2,827万円を刺し子さんに商品製作代金としてお支払いすることができました。

大槌復興刺し子プロジェクトでは、日本に昔から伝わる手しごとの一つである「刺し子」を活用した商品の企画・製作・販売をおこなっています。製品の作り手である「刺し子さん」として活躍するのは、岩手県大槌町で、東日本大震災により被災された中高年の女性の方々です。毎週2回、商品の買取りや材料の配布を行う「刺し子会」の開催に加え、商品製作に必要な技術を学ぶ「技術講習会」、刺し子の事務所を訪れた方々と交流する「お茶っこの会」などを実施しています。

プロジェクトを始めてもうすぐ6年目となり、「刺し子会」も今では、刺し子さんたちの生活に欠かせない「場」として定着しています。毎週の刺し子会を楽しみにしてくれている刺し子さんたち。日々の他愛のない話をしたり、時には噂話に花を咲かせたり、大槌刺し子の事務所では今日も刺し子さんたちの豪快な笑い声が響いています。

技術力の向上を目指して、伝統柄100個バッグ・プロジェクト

刺し子さんの技術力と商品付加価値の向上を目指して、岐阜県高山市より二ツ谷恵子氏を招聘し、3回の技術講習会を開催しました。技術講習会には、毎回30名以上の刺し子さんが参加し、下書きの方法や一目刺し、かすりの柄を生かした刺し子の技法を学ぶなど、新しい技術を習得しました。また、技術講習会では、「伝統柄100個バッグ・プロジェクト」と銘打ち、1点物の伝統柄バッグを100個制作したほか、野良着2着の製作を行いました。2016年2月より、イベントや百貨店催事等で販売を行い、好評を博しています。伝統柄バッグは、1つ1つに製造番号と刺し子さんの名前の書いたカードを付けることで、作り手である刺し子さんの顔が見える工夫をしました。プロジェクト開始から5年を経た大槌刺し子の技術力を示す象徴的なプロジェクトとなりました。



2015年度の事業を振り返って

2015年度の大槌復興刺し子プロジェクトは、再出発の1年でした。2014年度に株式会社化を宣言したものの、2015年度は一旦、それを白紙に撤回する決定をさせていただきました。そして、8月より私がプロジェクト・リーダーに就任させていただき、新しい体制となりました。

私にとっては、全てが初めての連続。不安と向き合いながらのスタートとなりました。しかし、そんな未熟な私を、地元のスタッフ、刺し子さんが温かく支えてくださり、大槌で笑いと感謝に包まれる日々を送ることができました。

特に、岐阜県高山市から刺し子に携わって30年以上のキャリアを持つ二ツ谷恵子氏を招いて実施した3度の技術講習会。それを通じて、100個の伝統柄バッグと2着の野良着を作り上げたときの達成感、そして、刺し子さんたちの誇らし気な顔が忘れられない1年となりました。まだまだ課題の連続ですが、これからも刺し子さん、スタッフとともに、「大槌刺し子」を作っていきたいと思っています。



〔日本 岩手事務所〕
大槌刺し子
プロジェクトマネージャー
吉田 真衣

1 大槌復興刺し子プロジェクト

事業の目的	刺し子商品を企画・販売し、東日本大震災で被災された方々への商品製作代金の支払いを通じて、生活再建を促進する。また、商品製作にあたり技術講習会などを通じ、被災された方々の相互交流を活性化させ、心理的社会的負担の軽減を図ること 「刺し子」による、継続的な手仕事の提供、地元人材の雇用創出、及び事業を通じた訪問客等による地域活性化への貢献のため、東日本大震災から10年後の2021年までに、NPO法人テラ・ルネッサンスから、独立採算による別法人化を果たし、現地職員と地元住民による運営を目指すこと		
事業地域	日本	受益者数(累計)	184名
受益者カテゴリー	東日本大震災の被災地域の女性	事業実施期間	2011年6月～継続中



プロジェクトの成果

東日本を襲った未曾有の大震災から5年が経ち、震災の約3ヶ月後に産声を上げたプロジェクトも5年目に突入した2015年。各被災地はまだまだ復興の道半ばであり、甚大な被害を被った大槌町も例外ではありません。しかしながら、被災地以外の地域では、震災の風化が進んでいることも否定できません。

大槌復興刺し子プロジェクトでも、売上げの低迷という課題に直面し、ソーシャルの部分では、刺し子さんがいきいきと活動できる場を作りながら、ビジネスとしては、復興市場から一般市場に移行するというチャレンジを求められる1年となりました。そこで、「刺し子」の技術力を全面に押し出した高付加価値商品の開発に加え、百貨店の催事への挑戦を始めとする新しい販路の拡大に力を入れました。

また、大槌刺し子や大槌の未来について話し合う「対話の集い」(ワークショップ)を5回開催し、プロジェクトに関わる一人ひとりが、より主体的にプロジェクトに取り組むことができるよう、プロジェクトの目指すもの、考え方(=ミッションステートメント)をまとめました。

[写真:左上] 真剣な様子で対話の集いに参加する刺し子さんたち

[写真:下] 製作した野良着

刺し子商品をご購入いただいた、お客様の声

大槌復興刺し子プロジェクトの作品を使わせていただいて

加藤 晃代 さま

私が初めて大槌復興刺し子プロジェクトを知ったのは、4年ほど前です。テラ・ルネッサンスの鬼丸さんの講演を聴きに行き、どんな活動をされているのかをインターネットで調べ、Facebookの投稿を読ませていただく中で知りました。

最初は布巾、コースター、そして名刺入れ、パーカー、ポロシャツと新製品が出るたびに購入していました。名刺交換の度、「可愛い〜」「どちらで買われたのですか?」と聞かれ、つい嬉しくなっている方にお話しています。

先日はトートバッグと、伝統柄100個バッグを手に入れました。トートバッグは大活躍。「ちょっとそこまで」にはもちろん、どこに行くにも持ち歩いてます。伝統柄100個バッグが家に届いたときは本当に大感激。作ってくださった加藤さん(なんと同じ名前)の直筆メッセージ付きでした。使うのがもったいないくらい素敵です。糸につやがあって、角度を変えるといろいろな顔が登場します。世界にたった一つのバッグです。加藤さんと、大槌町の皆様とつながっている感じがして心が温かくなります。



[写真:上] 100個バッグを持つ加藤さん

[写真:下] 大槌刺し子の名刺入れ

幅広い世代に人気の大槌刺し子。商品のお買い求めは、大槌刺し子の公式サイトをご覧ください。

<http://tomotsuna.jp/>



啓発事業 日本 Japan

めぐるプロジェクトへの参加者6,320名・団体。177回の講演が開催され、講演会やイベントへの参加者延べ20,000名のほか、40名をボランティア、インターンとして受け入れました。さらに、京都で毎月定期開催しているテラ・カフェや、毎年の京都ヒューマンフェスタ、東京のグローバルフェスタなどに出席しました。

現場での支援はもとより、現場で起こっている問題の根本的な解決を目指すテラ・ルネッサンスでは、一人でも多くの方に、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題解決に向けた取り組みを知っていただくため、日本国内での啓発活動をおこなっています。

めぐるプロジェクトとして、書き損じはがき、不要になった携帯電話の回収、キフ★ブック（古本等）、フクサポ（古着等）、コシサポ（古紙）、アルサポ（タイヤのアルミホイール）への参加呼びかけを行うとともに、書籍、ウガンダコーヒー、クッキー等の販売も実施しています。さらにイベントや活動報告会では活動内容の紹介を行い、講演会の講師として日本各地を訪れています。特に2015年度は、清水寺での国際協力イベント「清水寺で世界を語る～『I am』わたしにできること～」の実行委員長としてイベントの運営も行いました。また、啓発活動をする上で重要な平和の担い手を育成するため、人材育成（ボランティア、インターンの受け入れ）もおこなっています。

初めての海外講演「台湾から始まるテラ・ルネッサンスの次なる一歩」



2015年6月27日、テラ・ルネッサンス史上初となる海外での講演会を開催しました。開催地は台湾。参加者は学生から一般まで幅広く、合計52名の方に参加いただきました。「自分にできることで、平和な社会につなげていきたい」「世界で起こっている真実を知れて良かった」などの感想もいただき、通訳をばさんでの講演となりましたが、参加された方々は熱心に耳を傾けてくださっていました。これからも、テラ・ルネッサンスが取り組む課題、そしてその課題に対する取り組みと想いを、より多くの方々に伝え、関心の輪を広げていきたいと考えています。

2015年度の事業を振り返って

2015年度は、講演、イベント、めぐるプロジェクトに重点を置き、啓発活動に取り組みました。特にめぐるプロジェクトでは、アルミホイールの寄付による支援も新たに加わり、同プロジェクトにおける換金額は、2015年度だけで2,310,858円となりました。協力者数は6,320人となり、特に、古着などを集めて支援金に換える「フクサポ」の伸びが非常に大きく、協力件数は前年度の約10倍の結果となっています（2014年度実績494件、2015年度実績5,818件）。また、創設者の鬼丸以外の講演も増え、過去最高の177回の講演会を開催しました。さらに設立後、初めてとなる、台湾での鬼丸講演会を実施し、これまで52名の方に参加いただいています。

2015年度は、スタディツアーが最少催行人数を下回り、開催することができなかったため、次年度はツアー内容を改めて考え、企画調整を行うとともに、現地視察の受け入れなどをより積極的に実施していきたいと考えています。



〔日本 京都事務局〕
啓発チーム
マネージャー
栗田 佳典

啓発事業のプロジェクト概要と成果

キフ★ブック (めぐる)	フクサポ (めぐる)	コシサポ (めぐる)
身近な国際協力をテーマに、古本やCDを集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。 参加者数 311名・団体	身近な国際協力をテーマに、古着を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。 参加者数 5,818名	身近な国際協力をテーマに、古紙を集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。 参加者数 48名
アルサポ (めぐる)	はがき・ケータイ(めぐる)	講演・イベント
身近な国際協力をテーマに、タイヤのアルミホイールを集めることで、誰にでも参加できる国際協力を提示し、関心を集めるとともに資金を調達する。2015年度よりスタートした取り組みとなります。 参加者数 延べ40人(2015年度)	書き損じはがき、携帯電話を集めることで、気軽な国際協力を提示する。(終了を延長し、一部特別にインクカートリッジの受付もおこなった) 参加者数 143名・団体	講演やイベントへの参加を通して、取り組む課題、活動への関心を集める。 参加者数 20,000名
人財育成 (ボランティア・インターン)	募金箱	パネル
大学生や社会人を主な対象として、次世代の平和の担い手となる人財を育成する。 参加者数 延べ40人(2015年度)	お店や企業内での募金箱の設置を通して、活動の啓発を行うとともに、活動資金を調達する。 参加者数 60団体 128,354円	子ども兵や地雷の写真パネルを通じて、取り組む課題や活動への関心を集める。 貸し出し 3団体
表彰・受賞		
<ul style="list-style-type: none"> ・第3回 日経ソーシャルイニシアチブ大賞 国際部門 ファイナリスト ・グローバルフェスタJAPAN2015 写真展 最優秀賞 (NGO部門) 		



【写真:左】 京都にある向島東中学校で、地雷や子ども兵などの問題について講演をするインターン生の様子



【写真:右】 第9回チャリティバドミントン大会が開催され、参加費等の収益をカンボジアの活動へのご支援いただきました
(主催: 頑張らないバドミントン研究会)

啓発・人財育成事業、その他の活動について

ノーベル平和賞受賞団体 副代表との対話を実現

2015年ノーベル平和賞を受賞したチュニジア国民対話カルテットの一団体、チュニジア人権擁護連盟副代表アリ・ゼディニ氏(写真:左から2番目)が来日され、当会職員と対話する機会をいただきました。主にチュニジア民主化の経緯などについて、お話を伺いました。特に印象的だったことは、民主化を推進するうえにおいて、国民や政治家、次世代の若者に対しても、「押し付けない姿勢」を大切にされていたことです。その姿勢は私たちのすべての活動において通ずるものです。押し付けない姿勢を大切に実践を続けていきたいと思えます。



つながりと感謝を伝えたい、『みんなのチャリティ』を開催

2015年12月、京都では2度目の開催となるチャリティイベント、『みんなのチャリティ』を開催しました。これまでテラ・ルネッサンスを応援してくださっている方から、これから応援してみたいと考えていただいている方など、合計31名にご参加いただきました。

イベントでは、寄付つき商品の協働販売に取り組む企業様、当会のファンクラブ会員としてご支援くださる支援者様との対談などを実施。ご参加いただいた方からは、「それぞれの立場でできる支援のあり方を考えることができた」など、たくさんの感想をお寄せいただきました。参加してくださった方々同士、支援のきっかけをはじめ、国際協力や社会貢献にかける想いなどを共有する交流の機会にもなりました。今後も、可能な範囲でこのようなイベントを開催していきたいと思っています。



100人を越えて受け継がれる 平和への意志

2015年12月インターンOB・OG会を開催しました。これまで104名のインターンを受け入れてきたテラ・ルネッサンス。平和な社会の実現のためには、平和とともに築く担い手の育成が必要だと考え、設立初期より仲間を集い、活動をおこなってきました。卒業し、それぞれの分野で活躍するインターンの現在を知るとともに、これからの未来をともに見つめていくために結束を固める日となりました。「これまでテラ・ルネッサンスを支えてきた先輩方と現役に繋がりが生まれたら、卒業生がもう一度テラ・ルネッサンスに関わってくれたら、どんな面白いことが起こるのだろう・・・！」そんな想いで企画をはじめたOB・OG会。インターンを通してテラ・ルネッサンスの理念や考え方が身体に染み込んでいる私たちだからこそ、それぞれの関心や性格は違って、心の奥深くにあるものは同じであるように感じました。今後も定期的に開催し、この繋がりをもっともっと深め、それぞれの場所で、世界平和の実現に向けて奮闘したいです。



【写真:上】OB・OG会に集まった歴代のインターン卒業生やスタッフたち

【写真:下】これまでのインターンの相関図を見ながら交流している様子



【日本 京都事務局】
啓発チーム フェローシップ
川島 綾香



Photo by Kenichi Aikawa

世界を変えるグローバルキャリア

2015年2月17日、国際交流基金にて開催されたトークセッション「世界を変えるグローバルキャリア」に職員の栗田が登壇しました。なでしこVoiceの濱田真里さん、かものほしプロジェクトの草薙直基さんとともに、国際協力の道を志す大学生や、次のステップを考える社会人など、総勢69名の参加者に、国際協力の現場で働くことについて、その想いをお伝えしました。

テラ・ルネッサンスが目指す『すべての生命が安心して生活できる社会』を実現するためには、一人でも多くの平和の担い手が必要だと考えています。アフリカやアジアで行う現場での支援活動の経験を活かし、講演やイベントなどの啓発活動を通じて、日本における次世代の平和構築の担い手の誕生と育成に、今後も取り組んでいきたいと思います。

テラ・ルネッサンスでは多様なバックグラウンドをもった、学生や社会人インターンが活躍しています。あなたの想いや強みを当会で活かしてみませんか？インターンの募集は、夏と冬におこなっています。ご応募お待ちしております。

http://www.terra-r.jp/icando_internship.html

テラ・ルネッサンス インターンシップ



講演実績

<p>企業・団体</p>	<p>株式会社 FUJITSU ユニバーシティ 株式会社プロセミ ト-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 JFE スチール株式会社(西日本製鉄所) オムロン株式会社 株式会社フジケン 株式会社リタワークス 株式会社王宮(道頓堀ホテル) 株式会社船井本社 近畿労働金庫(尼崎支店) 京都武田病院 株式会社Plug078 社会福祉法人合掌苑 社会福祉法人福祉の里 国際ロータリー第2610地区ガバナー事務所 成田ロータリークラブ 成田コスモポリタンロータリークラブ 京都南ローターアクトクラブ 宇都宮中央ライオンズクラブ 千原倫理法人会 八千代市倫理法人会 銚子市倫理法人会 足利市倫理法人会 宗教法人松緑神道大和山 宗教法人立正佼成会掛川教会 宗教法人立正佼成会朝霞教会 宗教法人創価学会 創価学会ユースフォーラム 特定非営利活動法人アークス 特定非営利活動法人アイ・エス・エル 特定非営利活動法人だっぴ(テラ・ルネッサンス岡山講演会実行委員会) 政経倶楽部千葉県支部 特定非営利活動法人仕事人倶楽部 公益資本主義推進協議会 公益資本主義推進協議会群馬栃木支部 一般社団法人日本情報システムユーザー協会 公益財団法人信頼資本財団 特定非営利活動法人高齢者大学校 ソフトウェア開発販売関東協同組合 日本船舶振興会(やまと競艇学校) 印刷労連京滋地方協議会 羽村市生涯学習センター 掛川商工会議所 独立行政法人国際交流基金 京都府ガールスカウト連盟 川南町PTA連絡協議会 女子会マネー講座 経済に強いママを増やす会 北海道鬼丸昌也講演会実行委員会 未来・平和プロジェクトチャリティー講演会実行委員会 ESDまなびとステーション 薔薇棘勉強会</p>
<p>教育機関</p>	<p>亀岡市立亀岡中学校 京都教育大学付属桃山中学校 熊本市立桜木中学校 京都市立朱雀中学校 姫路市立城乾中学校 宇治市立西小倉中学校 亀岡市立南桑中学校 枚方市立さだ中学校 枚方市長尾西中学校 木津川市立木津第二中学校 門真市立はすな中学校 門真市立第四中学校 京都市立向島東中学校</p> <p>和歌山県立和歌山北高等学校 岡山県立真庭高等学校落合校地 岡山県立津山東高等学校 華頂女子中学高等学校 関西学院大学高等部 宮城県富谷高等学校 三重県立四日市高等学校 三重県立石薬師高校 神奈川県立横浜国際高等学校 大阪府立佐野高等学校 大阪府立北野高等学校 徳島県立城東高等学校 大阪府立福井高等学校 京都府立福知山高等学校 福岡県立小倉南高等学校 福岡県立八幡中央高等学校 福島県立あさか開成高等学校 立命館宇治高等学校</p> <p>奈良女子大学 横浜国立大学 花園大学 京都女子大学 京都造形芸術大学 駒澤大学 甲南女子大学 近畿大学 三重大学 上智大学 神戸市外国語大学 創価大学 立命館大学 千里金蘭大学 東北芸術工科大学 同志社大学 法政大学 名古屋市立大学 龍谷大学 聖泉大学</p> <p>長野県松本市立高綱中学校PTA 京都府北部人権学習会 善通寺市教育委員会 中百舌鳥小学校PTA 東洋大学朝霞図書館 R.I.2640地区インターアクトクラブ R.I.2730地区インターアクトクラブ 同志社国際協力サークルTicarette 早稲田大学マニフェスト研究所</p>
<p>行政</p>	<p>さいたま市役所 沖縄自治研修所 熊本県 呉市役所 公益財団法人ふくしま自治研修センター 三次市役所 人事院公務員研修所 総務省統計局 足利市役所 津市 高知市 須坂市中央公民館 青森県下北地域県民局 静岡市役所 奈良市役所 松本市役所</p>

年間170回以上にもなる講演は、学校をはじめとし、企業や行政まで幅広い層に人気です。講演の開催等のお申し込みは、テラ・ルネッサンスの公式サイトから、お気軽にお問い合わせください。

<https://www.terra-r.jp/lectureform.html>

テラ・ルネッサンス 講演 検索



主催イベント

50回を超えたテラ・カフェ 続く想いをこれからも

2011年4月から始まったテラ・カフェも、2015年度で50回を迎えました。Enrich your life～あなたの心を満たす90分間～というテーマを掲げ、各回テーマ、講師を変えて皆様への活動報告・紹介をおこなってきました。2012年度からは、株式会社ウエダ本社さまのご協力の下、開催会場をウエダ本社ビル2階セミナールームに移し、これまでの参加者数は延べ500名。2015年度は、ウガンダに長期に訪問したインターン生の報告をはじめ、できる限り、現場の声を早く届けるための企画を心がけてきました。参加された方々からは、「参加して視野が広がった」「支援に関する理解が深まった」などの声もいただくことができました。これからは、ただ参加するだけでなく、参加者同士のつながりも深まるような機会を提供しながら、2016年度も毎月第2水曜日、京都市内の開場にて開催していきます。



各種主催イベントへの参加

2015. 6.20	第9回 頑張らないチャリティバドミントン大会 (頑張らないバドミントン研究会)
2015. 9.12	国際協カステーション 2015 (JICA 関西 公益財団法人京都府国際センター) (同イベント内にてファッションショーイベントも開催)
2015.10.03, 04	グローバルフェスタJAPAN 2015 (グローバルフェスタJAPAN 2015 実行委員会)
2015.11.08	清水寺で世界を語る ～「I am」わたしにできること～ (清水寺で世界を語る実行委員会)
2015.12.06	京都ヒューマンフェスタ (京都府)
2015.12.26	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth (公益財団法人大阪国際交流センター、NPO法人関西NGO協議会)
2016. 2.06, 07	ワン・ワールド・フェスティバル (ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会)

メディア掲載実績 (重複を除く)

東京新聞 京都新聞 毎日新聞 朝日新聞 下野新聞 高知新聞 山陽新聞 中外日報 佛教タイムス 宮崎日日新聞
 NHK 岩手めんこいテレビ テレビ岩手

- NHKスペシャル 戦後70年ニッポンの肖像 一戦後70年を越えてー日本人は何ができるのか (8/15 放送)
- NHKドキュメンタリー 石原さとみアフリカへの旅 “いのち”に魅せられた9日間 (12/28 放送)

とりわけ、上記番組において、当会のウガンダにおける活動が取り上げられました。女優・石原さとみさんがウガンダを訪れ、元子ども兵たちへのインタビューや、交流などを通じて、資源等を巡り争いが起こる世界において、資源を消費する日本人として、またひとりの人間として何ができるかを問いかける内容でした。関東圏だけで、推定視聴人数200万人であり、全国から多くの反響をいただきました。

ご支援くださる皆さまからの応援メッセージ

テラ・ルネッサンスの目的・使命・理念に共感しています。

株式会社オンズホールディングスの新井と申します。テラ・ルネッサンス創設者・理事の鬼丸昌也さんに初めてお会いし、講演会に参加させていただいたのが、今から約3年程前です。今も起こっているアフリカ諸国での現状を知り、その事実に衝撃を受けたことは変わることなく、今も私の心に深く残っています。テラ・ルネッサンスの目的・使命・理念に共感し、何かお手伝いはできないかと支援させていただいたのが、ブルンジ共和国における「オンズ自立支援センター」の設立。養蜂等を通じて職業訓練の自立支援に少しでもお役立ちできれば幸いです。我々オンズグループでも「未来をつくる力」があると信じ、今後も積極的に支援をしていきたいと思っております。



株式会社
オンズホールディングス
新井 健太郎 さま

法人寄付

この世界に必要な活動を、ささやかながら支援したい。

以前岡山で開催された講演会でテラ・ルネッサンスの活動についてお話を伺いました。子ども兵の実態や、地雷・戦争の被害にあわれた方の厳しい現実、そしてどんなに苦しい中でも懸命に生きよう、前に進もうとする人々の存在を知り、テラ・ルネッサンスは本当に価値の高い、この世界に必要な活動だと感じました。何かの形で私もお手伝いをさせて頂きたい、この活動に加わりたい、という思いからささやかながら支援をさせていただくことを決めました。平和な国に住んでいると戦争なんて違う世界のこのように感じてしまいますが、現実をきちんと受け止め、これから自分はどんな生き方をしていくのかを考えていきます。



株式会社
ジョブシミュレーション
梅崎 泰佳 さま

ファンクラブ会員

テラ・ルネッサンスは、京都府から認定を受けた認定NPO法人です。当会へのご寄付は寄付金控除など、税の優遇措置の対象となります。

テラ・ルネッサンスには、さまざまな支援の方法があります。例えば、約100円/日(1年間)のご寄付で、ウガンダの元子ども兵社会復帰支援センターで、元子ども兵1人に1年分の給食を提供できます。ご寄付・支援の詳細な方法は、テラ・ルネッサンスの公式ホームページをご覧ください。

<https://www.terra-r.jp/member.html>



テラ・ルネッサンス 支援

検索

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
理事長	小川真吾
設立年	2001年(法人格取得2005年、2014年認定NPO法人となる)
活動対象国	カンボジア王国 ラオス人民民主共和国 ウガンダ共和国 コンゴ民主共和国 ブルンジ共和国 日本
海外・国内事務所	本部事務局(日本 京都府) 大槌事務所(日本 岩手県) カンボジア事務所(カンボジア王国バタンバン州) ウガンダ事務所(ウガンダ共和国グル県) コンゴ事務所(コンゴ民主共和国南キブ州) ブルンジ事務所(ブルンジ共和国ブジュンブラ市)
海外における 主な協力団体	●カンボジア Mine Advisory Group(MAG)、Cambodia Trust ●ラオス MAG-Lao、UXO-Lao ●ウガンダ Gulu Support the Organization(GUSCO)、Gulu NGO Forum ●ブルンジ CEDAC

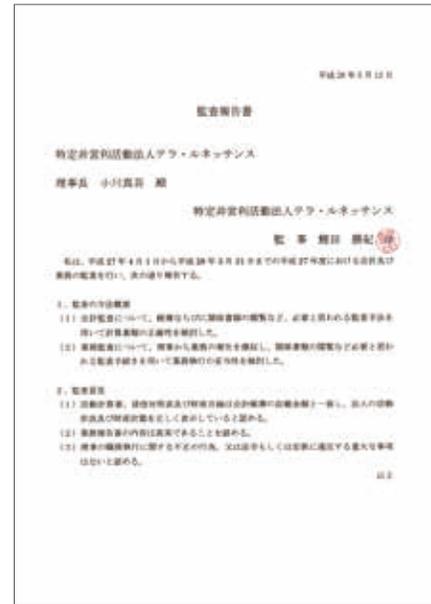
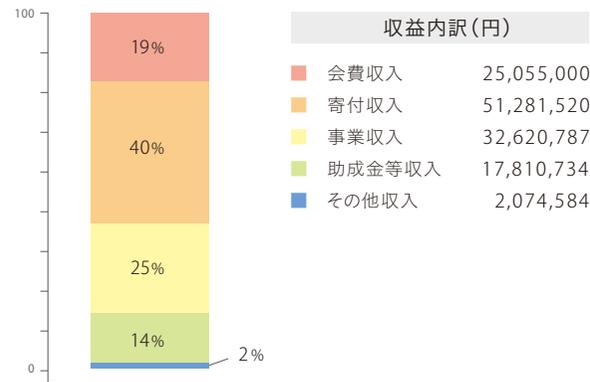
役員・体制 (2016年3月末日)

理事	小川真吾 鬼丸昌也 中井隆栄 岡田則子 新居真衣
監事	鯉田勝紀(公認会計士・税理士/鯉田会計事務所)
顧問	小田全宏(特定非営利活動法人日本政策フロンティア理事長)
スタッフ	●本部事務局(京都) 有給専従職員 5名 有給非専従職員 1名 インターン 25名 ●大槌事務所(岩手) 有給専従職員 2名 有給非専従職員 3名 ●カンボジア事務所 日本人有給職員 1名 ローカルスタッフ 6名 ●ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 13名 ●コンゴ事務所 ローカルスタッフ 6名 ●ブルンジ事務所 ローカルスタッフ 4名
会員数	正会員 115名 個人賛助会員 236名 ジュニア賛助会員 11名 団体賛助会員 110団体 ファンクラブ会員 974名 【総会員数 延べ 1,440名・団体】
加盟団体	(特活)関西NGO協議会 (特活)地雷廃絶日本キャンペーン 児童労働ネットワーク 日本小型武器行動ネットワーク (特活)国際協力NGOセンター(JANIC) ウガンダ小型武器行動ネットワーク 国際小型武器行動ネットワーク 世界子ども兵禁止連盟 グルNGOフォーラム

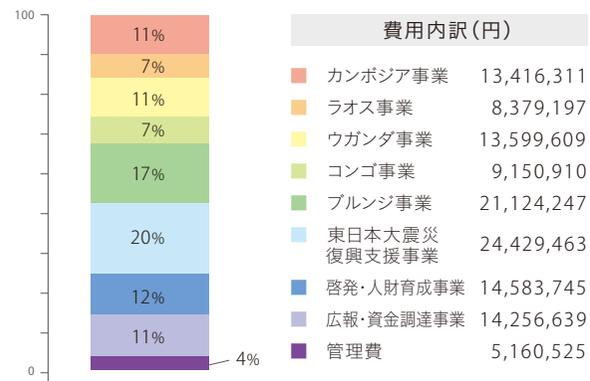
2015年度決算ならびに2016年度予算

(単位:円)

I 経常収入の部		2015年度 予算	2015年度 決算	2016年度 予算	
1. 会費収入		24,340,000	25,055,000	28,000,000	
2. 寄付収入		54,900,000	51,281,520	72,400,000	
3. 事業収入		33,500,000	32,620,787	42,350,000	
4. 助成金等収入		22,000,000	17,810,734	29,500,000	
5. その他収入		-	2,074,584	-	
経常収益合計		134,740,000	128,842,625	172,250,000	
II 経常費用の部					
1. 事業部門	海外事業	カンボジア事業	17,194,785	13,416,311	15,035,000
		ラオス事業	8,648,162	8,379,197	13,619,000
		ウガンダ事業	11,832,635	13,599,609	16,178,000
		コンゴ事業	12,916,994	9,150,910	14,287,000
		ブルンジ事業	25,247,297	21,124,247	25,468,000
	国内事業	東日本大震災復興支援事業	21,402,883	24,429,463	29,214,000
		啓発・人材育成事業	26,688,835	14,583,745	26,397,000
		広報・資金調達事業	8,397,455	14,256,639	20,642,000
2. 管理部門		4,469,384	5,160,525	7,668,000	
経常費用合計		136,798,430	124,100,646	168,508,000	
当期収支差額		▲2,058,430	4,741,979	3,742,000	



監査報告書



国際協力事業費明細

(単位:円)

カンボジア事業	現地管理費		700,348
	地雷撤去支援プロジェクト		272,426
	地雷埋設地域村落開発支援プロジェクト	収入向上支援	8,808,635
		基礎教育支援	3,634,902
合計			13,416,311
ラオス事業	現地管理費		275,962
	不発弾撤去支援プロジェクト		163,999
	不発弾汚染地域村落開発を通じたコミュニティ・レジリエンス向上支援プロジェクト		246,369
	不発弾汚染地域学校建設支援プロジェクト		7,692,867
合計			8,379,197
ウガンダ事業	現地管理費		2,303,384
	元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	BHN支援	4,248,596
		能力向上支援	3,267,659
		心理社会支援	1,859,064
		収入向上支援	1,863,926
	不法小型武器問題啓発プロジェクト		56,980
合計			13,599,609
コンゴ事業	現地管理費		1,271,626
	元子ども兵及び紛争被害者エンパワメントプロジェクト	食料安全保障支援	3,712,518
		収入向上支援	3,524,599
		心理社会支援	642,167
合計			9,150,910
ブルンジ事業	現地管理費		1,613,931
	紛争被害者及び貧困層住民の能力開発を通じたレジリエンス向上プロジェクト		18,227,672
	少年サッカーアカデミー設立プロジェクト		264,074
	伝統ダンス教室開催を通じた心理社会支援プロジェクト		1,018,570
合計			21,124,247

貸借対照表 (2016年3月31日 現在)

I 資産の部	1. 流動資産		II 負債の部	1. 流動負債		
	現金・預金	20,177,875		未払金	2,720,927	
	売掛金	1,838,486		未払法人税等	142,000	
	未収金	2,155,504		買掛金	192,760	
	商品	6,022,492		預り金	508,111	
	マイクロクレジット	1,084,810		流動負債合計	3,563,798	
	流動資産合計	31,279,167		負債合計	3,563,798	
	2. 固定資産			III 正味財産の部	前期繰越正味財産	32,734,627
	有形固定資産	9,129,237			当期正味財産増減額	4,599,979
	投資その他の資産	490,000			正味財産合計	37,334,606
固定資産合計	9,619,237		負債及び正味財産合計	40,898,404		
資産合計	40,898,404					

テラ・ルネッサンス 設立15周年イベント



設立15周年記念イベントを開催します

2001年、創設者 鬼丸が一人で開始した活動は、皆様一人ひとりの想いと行動に支えられ、今ではアフリカやアジア、日本の6カ国において活動をできるようになりました。今回のイベントは、テラ・ルネッサンスの15年間の歩みと成果、今後の展望、そして何より応援して下さる皆様への感謝をお伝えできる日にしたいと考えています。現在、スタッフ一同心を込めて準備を進めています。イベントの詳細は、随時、当会のホームページやフェイスブックなどでお伝えしてまいります。どうぞ、今から手帳にご記入ください。当日、会場でお会いできることを楽しみにしております。

認定NPO法人テラ・ルネッサンス
理事長 小川真吾

京都

日程 / **2016年11月6日(日)**
時間 / 13:00~16:00(仮)
会場 / ひとまち交流館京都 大会議室
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町 83-1
定員 / 200名
参加費 / 大人 3,000円 学生 1,500円
※ 高校生以下 [無料]

東京

日程 / **2016年11月12日(土)**
時間 / 13:00~16:00(仮)
会場 / 薬樹株式会社セミナールーム
東京都港区赤坂 8-5-26 赤坂DSビル 4階
定員 / 200名
参加費 / 大人 3,000円 学生 2,000円
※ 高校生以下 [無料]

＼ 設立15周年イベントの詳細は、公式サイトをご覧ください ／

http://www.terra-r.jp/news/event/event_15th.html



ひとり一人に未来をつくる力がある

認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室

TEL/FAX : 075-741-8786 E-mail : contact@terra-r.jp

HP : www.terra-r.jp Facebook : [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) Twitter : [@terra_ngo](https://twitter.com/terra_ngo)